

平成27年7月3日

農作物生育・技術情報4号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1 水稲生育状況（7月1日現在）

品 種	生 育 状 況		
	項 目	27年	平 年
ななつぼし	草丈(cm)	43.3	44.7
	葉数(葉)	8.5	8.6
	莖数(本/m ²)	423.4	456.4
	幼形期	—	7月4日
	遅速日数	±0	—

6月下旬は低温と日照不足により、莖数はやや少なく経過していますが、生育は平年並みです。
幼穂形成期は平年7月4日になって
いますが、今年は少し遅れています。
 幼穂形成期を確認してから、適正な水管理を行いましょう。

技 術 対 策

○幼穂形成期からの水管理

- ・幼穂形成期後10日間（前歴期間）の水深10cm、平均水温25℃以上保つようにする。その後、約10日間（冷害危険期終了まで）の水深10cmから徐々に20cmまでにする。
 ※天候不順時の入水は、水温低下を招くので、かんがい溝と水田の水温差が比較的小さい夜間から早朝にかけて行い、水田の水温低下を少なくしましょう。

○幼穂形成期の追肥

- ・ケイ酸追肥で耐冷性を高め、不稔発生の軽減とタンパクを低下させる。
追肥時期：幼穂形成期7日後、ケイカル、ゆめシリカ等20kg/10a

○病虫害防除

- ・いもち病防除は、発生しそうな水田をよく観察し、水面施用剤で予防防除を行う。
- ・紋枯病は高温多湿になると発生するので、7月中旬頃に水際部を観察し、莖に灰色の円形状の病斑が広がってきたら防除する。
- ・イネドロオウムシ・フタオビコヤガは高温、多照が続くと発生しやすくなるので、葉が白くなるほどイネドロオウムシに食害されたり、葉がなくなるほどフタオビコヤガの食害がある、1株に幼虫が3～4匹見えたら防除する。

2 主要野菜の生育状況

作 物 名	生 育 状 況	技 術 対 策
トマト ハウス桃太郎 桃太郎ギフト 桃太郎8	<ul style="list-style-type: none"> ・6月中下旬からの気象変動が大きいので生育は停滞気味で、樹勢の低下、上位葉の葉先枯れ症状や落花が見られる。 ・5月定植作型は1段目収穫始め。 ・6月定植作型の生育はやや平年並みに経過している。 ・アブラムシ類の発生、半身萎凋病、褐色根腐病、灰色かび病等が一部ほ場で見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハウスビニールのこまめな開閉により適正な温度管理に努め、樹勢維持のために追肥とかん水量を調整する。 ・30℃以上では落花が多くなるので高温時には十分な換気を行う。 ・樹勢が弱い時、通常の追肥と同時に窒素主体の葉面散布を行う。 ・曇天後に急激に日射量が増加する場合等は、特に日やけ果の発生に注意すると共に遮光資材等を活用する。 ・アブラムシ類の防除対策として、ハウス周りの除草を行うと共に、発生確認後は早めに薬剤防除を行う。 ・灰色かび病や葉かび病対策は予防をかねてローテーション防除を行う。

ハウス軟白ねぎ 北の匠、 杓イトド等	<ul style="list-style-type: none"> ・アザミウマ類、ハモグリバエ類、タマネギバエが一部に見られる。 ・葉先枯れ症状が一部で見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハウス周辺の除草を行う。 ・タマネギバエは高湿度条件下で産卵されるので降雨後は早めの薬剤防除を行う。 ・生育量に応じたかん水を行う。
アスパラガス (ハウス立茎) スーパーウェルカム	<ul style="list-style-type: none"> ・灰色かび病が一部のハウスで見られる。 ・ジュウホシクビナガハムシの食害が一部で見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・樹を軽くゆすり、老化花弁を落とす。ハウス内湿度を高めないように換気に努める。 ・早期発見、早期防除を行う ・ハウス周辺の除草を行う。

* 日高管内でネギアザミウマに対する合成ピレスロイドの抵抗性が確認されました。この抵抗性は抵抗性のやや強いタイプⅢです。今後は合成ピレスロイド系薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行いましょう。

3 牧草

一番草収穫後は速やかに追肥を行ってください。追肥は二番草収量のみでなく、草地の植生維持のためにも重要です。牧草は肥料切れに弱く、肥料切れを起こした牧草は枯死し、次年度の一番草収量低下や雑草をはびこらせる原因になります。

牧草の色が極端に薄かったり、葉先が黄色や赤く変色している場合は肥料切れのサインです。追肥や堆肥散布を検討しましょう。

4 畑 作

(1) ばれいしょ

○疫病 疫病は着蕾期以降から発生が見られ、降雨による多湿で蔓延しやすくなります。予防防除に努めましょう。

【防除例】 グリーンペンコゼブ水和剤(400~600倍) (収穫7日前まで)

○培土 本培土は萌芽後21~25日後、莖長25cm頃を目安に着蕾期までに終わらせる。生育の早い株に合わせ行いましょう。

(2) てん菜 詳しくは「てん菜栽培技術情報」をご覧ください。

○根腐病 高温多湿で多発します。予防防除に努めてください。

○ヨトウガ ほ場をよく観察して、虫や食痕を確認してから薬剤を散布しましょう。

(3) 秋まき小麦

○赤かび病 1回目防除の7~10日後に、ベフトップジンFLで防除しましょう。

○アブラムシ類 出穂10日後に1穂当たり7~11頭位(寄生穂率45%以上)寄生している場合は、防除が必要です。

(4) 大豆、小豆

定期的の中耕作業を行い、初期生育の促進に努めましょう。

大豆は花芽分化時期(7月上旬頃)までに中耕作業を終えましょう。

5 6~8月は「農薬危害防止月間」です!

◎病虫害・雑草の防除に使用する薬剤は、農林水産省が許可した薬剤だけです。

※容器に「農林水産省登録〇〇号」の記載があるので、必ず確認しましょう。

◎使い慣れた農薬であっても必ずラベルを確認しましょう。

・適用作物 ・使用時期(収穫前日数) ・希釈倍数、量
・成分ごとの使用回数

◎農薬の飛散防止に努めましょう。

